

第一貨物（本社・山形市、武藤幸規社長）は七日、山形県山辺町の「創生の森」でブナの苗木約五百本の補植を実施。第一貨物、太平興業、山形三菱自動車販売から二十九人が参加し作業に当たった。写真。

第一貨物は平成二十二年、国有地にブナの苗木約三千本を植林して創生の森と名付けた。中期経営計画に掲げる「地球環

# ブナの苗木を補植

## 第一貨物「創生の森」



境を意識した経営」の1つが原因で枯れてしまった環で、五十年間にわたりたものがたくさんあったブナの森を育んでいく。ことから、今回四百七十

野ネズミの根かじりな五本のブナの苗木を新た

に加えた。参加者は唐すきを使い額に汗をかきながら、ススキなどの根が広がった土に穴を掘り、苗木を植え直していた。

山の冬は寒さが厳しく苗木を覆う積雪や強風にさらされることが予想されるが、「無事に冬を乗り越え、春には青々とした小さな若葉を広げてくれる」と期待している（第一貨物）。

（矢田 健一郎）